

## 古川高校来館

## 感想文紹介

平成二十一年三月十二日、十三日、十九日に古川高校一学年の来館をいただきました。田中昌亮館長からの講話をはじめ、ビデオ上映・常設展示・企画展「現代に生きる吉野作造」の内容で見学をしていただきました。その感想文を紹介いたします。

古川高校一年

鈴木 文平

ぼくは吉野作造のことなんて、何も知らなかった。ただ、民本主義を唱えた人物と思っていた。彼はなぜ、有名なのだらうと考えることはあつたが、それを調べようと思うことは、今まで一度もなかった。そのため、今回の見学は貴重なものとなった。ぼくは色々と感じさせられた。現在では民主主義が当然のようなものだが、彼の時代は違つていたようだ。ぼくはそんな時代に生まれなくて良かったと思つた。彼が凄い人間だと思つたのは、彼の生活の様子を知つた時だった。彼は勉強ばかりして、当時はゲームがなかったというのがあるが、ぼくには絶対にできない。彼は強い精神と志を持っていたのだらうな。

国民の権利は制限されていた。そのような中で、もし国民の権利を重視するよう唱えたなら、一体どうなるだらうか。国家を敵にしようか。殺されてしまうかもしれない。それでも民本主義を目指した彼は、やはり偉大な人間なのだ。自分を犠牲にしてまで国民の幸せを手に入れようと、闘い続けた。まさに天才だ。ぼくが、現在の民主主義社会の中で、幸せに生活できているのも、彼のおかげだと思ふ。ありがとうと言いたいものだ。ぼくも彼のようになり、何か凄いことをしてみたい。でも、それはできない。それなら、どんな小さなことでもいいから、誰かを助けるようなことをしたい。それはできるはずだ。もし、ぼくが本当にそう思っているならば、ぼくも彼のような強い精神と志を持つべきだと思ふ。そうすれば、もつと自分を変えることができると思ふ。作造記

念館に行つて学んだのは、彼の歴史だけではない。人間性や努力の大切さ、そして愛情。たくさんの方の話を学ぶことができた。今度は、それを自分の生活にいかしていく。

古川高校一年

斎藤 ちはる

吉野作造のことは、教科書にのつていてそして古川出身ということが知つていました。が記念館を見学したのは初めてでした。特に印象に残つたことは吉野作造の生涯についてです。吉野作造が信じていた宗教はキリスト教でも熱心に信仰していたことに驚きました。また、中国やヨーロッパへ行き数年の間留学し



ていたことにも驚きました。民本主義を主張し大正デモクラシーの代表の人だったといふことは授業でわかつていたのですが、周囲からの強い圧力を受けてまで主張したことは知りませんでした。大正時代の強い権力を持った人達は外国の植民地化や戦争など人々を苦しめることをしてきました。しかし、吉野作造はこの行為を反対し民本主義を主張したといふことに、私はとても感動しました。勇気をもつて国民全体の幸福のために強い権力をもつた人々と戦うことは私には絶対できないことです。ただ人の言うことに受け流されない強い意志をもつた人だったといふことがわかりました。

古川高校一年

三塚 恵理子

私は、これまでは吉野作造という人物に興味を持つたこ

とがありませんでした。そして歴史の教科書などで名前を知つていても、具体的に何を唱えたのか、どのような事をしたのか知りませんでした。だから今回、吉野作造記念館を見学して、その生涯を知り、「民本主義」という考えに触れて吉野作造をわすかながらも理解できたように思いました。

大正の時代で民本主義を唱え続けるのはとても困難なことだったと思ひます。しかし、最後まで信念を曲げず、真つ直ぐに進み続けた吉野は本当に偉大だなあと思ひました。それだけでなく、ヨーロッパに渡つて実際に現地のデモなどを見たり、大学や研究所に留まらず外へ足を運んだ、といふ話を聞いて、吉野の行動力を強く感じました。そういった信念の強さや行動があつたからこそ、「民主主義」の考えの下で様々な活動ができたのだと思ひました。

今回の校外学習で、私は以前より深く吉野作造が偉大なことをやってきたのだと知ることができて、本当に貴重な学習をすることができたと思ひます。